考古学財団発掘帖

2011 2号

かながわ考古学財団情報誌　通巻 15 号　平成 23 年8月 31 日発行

伊勢原市

伊勢原市No.206 遺跡（いせはらしなんばー206 いせき）

伊勢原市 No. 206 遺跡は、伊勢原市上粕屋に位置し、上粕屋扇状地（せんじょうち）にある台地に立地しています。今回紹介する発掘調査は、新東名高速道路建設事業に伴って行われている発掘調査です。この遺跡からは、近世～奈良・平安時代、縄文時代、旧石器時代の遺構と遺物が見つかっています。写真は、中世のお墓です。斜面地を断面形がＬ字状になるように掘削し、平坦面を造り出していました。その中心部（写真中央）の小さな土坑から骨壺（蔵骨器）が見つかりました。骨壺は 12 世紀末から 13 世紀前半の渥美製の壺です。この場所からは近世のお墓（写真にある円形のもの）も見つかっています。

目　次

- 発掘現場・出土品整理インフォメーション
  - 相模原市：原西遺跡
  - 厚　木　市：中依知遺跡群
  - 伊勢原市：伊勢原市No.71 遺跡
  - 二　宮　町：天神谷戸遺跡
- こんなもの出たよ　双口状土製品
- 行事案内　平成 23 年度発掘調査成果発表会・展示会
  - 平成 23 年度東京・神奈川・埼玉埋蔵文化財関係普及連携事業
  - 公開セミナー

（公財）かながわ考古学財団

〒232-0033　横浜市南区中村町 3-191-1

☎ 045-252-8689　FAX 045-261-8162　URL http://www.kaf.or.jp

こんなものでたよ

最近の調査で出土した注目される遺物の紹介コーナーです。

今回は相模原市畑久保西（はたくぼにし）遺跡から出土した縄文時代後期の遺物です

双口状土製品（そうこうじょうどせいひん）

平成 20 年度調査で発見された縄文時代の土製品です。遺跡の北端部に展開する縄文時代後期の遺物集中範囲内から出土しました。紡錘形にちかい形状をなす中空の製品で、両端部に注ぎ口状を成すやや小ぶりの口縁部がつくり出されています。口縁部直下や体部中央に 2～3 単位の沈線が廻り、これによって分割された器面に 5 つの同心円文が対称的に配されています。

大きさは、長軸側で 10.9cm、短軸側で 6.3cm、高さ現状 4.8cm で、底面と考えられる部分を欠損しています。本来は平らな底部を有し、液体などを入れる器として使用されていたとみることもできますが、特徴的な形態や文様から、蝶や蛾などの幼虫にみられる眼状紋や体節を模した象形的な土製品の可能性も考えられます。

双口状土製品（畑久保西遺跡出土）

行事案内

平成 23 年度　発掘調査成果発表会・展示会

内　　容 ： 平成 22 年度に実施した発掘調査の成果発表および展示
日　　時 ： 10 月 8 日・11 月 12 日　9:00～17:00（※両日とも同じ内容です。）
　　展示会の内容は、両開催日の間も閲覧ができます。（平日のみ）
場　　所 ： 神奈川県埋蔵文化財センター　3F（横浜市南区中村町 3-191-1）　　費　用 ： 無 料
　　研修室（発表会）　資料閲覧室（展示会）　　発表会定員 ： 80 名
　　京浜急行「黄金町」駅より徒歩 13 分、横浜市営地下鉄「阪東橋」駅より徒歩7分、
　　横浜市営バス「浦舟町」バス停より徒歩5分
※応募方法等の詳細は決まり次第、チラシ・ポスター・財団ホームページ等でお知らせいたします。

平成 23 年度東京・神奈川・埼玉埋蔵文化財関係財団普及連携事業

「武蔵・相模の後期古墳ーその地域性と交流をさぐるー」（予定）
日　　時 ： 1月 9 日（祝）
場　　所 ： パルテノン多摩　小ホール（東京都多摩市落合 2-35）
※詳細は決まり次第、チラシ・ポスター・財団ホームページ等でお知らせいたします。

公　開　セ　ミ　ナ　ー

「発掘された横浜外国人居留地」
内　　容 ： 複数の商館・街路跡などの考古学的な発掘調査によって得られた情報から、居留地で営まれた商館の様相を探る。
日　　時 ： 1 月 21 日（土）　10:00～16:40　　費　用 ： 無料
場　　所 ： 横浜開港記念会館　講堂　　定　員 ： 481 名
※詳細は決まり次第、チラシ・ポスター・財団ホームページ等でお知らせいたします。

発掘帖バックナンバーはホームページ（http://www.kaf.or.jp）からダウンロードできます。

※かながわ考古学財団は 2011 年４月１日より公益財団法人に移行しました。

お申し込み
お問い合わせ

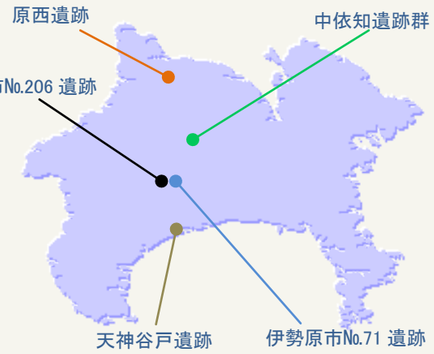
（公財）かながわ考古学財団　野庭出土品整理室

〒234-0056　横浜市港南区野庭町 1660　E-mail：fukyu@kaf.or.jp

TEL：045-842-9888（平日 8：30～17：15）　FAX：045-842-9904

発掘現場・出土品整理インフォメーション

ぼくは川尻中村遺跡（相模原市）のはちまき土偶はっちです。発掘調査や出土品整理中の遺跡の紹介をします



原西遺跡（はらにしいせき）

（所在地）	相模原市緑区	（時代）	近世、奈良・平安時代、縄文時代、旧石器時代	（調査期間）	2010 年 11 月～2011 年 11 月

原西遺跡は相模原市緑区小倉に所在する遺跡です。調査は、一般国道 468 号（さがみ縦貫道路）建設に先立ち実施されています。

調査地は相模川沿いの河岸段丘上に位置し、標高は約 120～123mです。発掘調査では近世、奈良・平安時代、縄文時代の遺構と遺物を確認しています。

近世は掘立柱建物跡数棟のほか、主として耕作地の痕跡を検出し、遺物は 18 世紀代以降の碗などの陶磁器の破片が出土しています。

奈良・平安時代では土坑と溝が散在し、縄文時代では竪穴住居跡2 軒と集石 1 基のほか、約 80 基の陥穴群を検出しました。これらは集落の端と狩猟地にあたる部分と考えられ、遺物は縄文時代早期～後期にかけての土器の破片や、石斧・磨石などの石器が出土しています。

陥穴群検出状況（2010 年）
（散在する小さな穴が陥穴）

中依知遺跡群（なかえちいせきぐん）

（所在地）	厚木市中依知	（時代）	近世、中世、奈良・平安時代、縄文時代	（調査期間）	2010 年 7 月～2011 年 2 月

調査は、一般国道 468 号（さがみ縦貫道路）および 246 号（厚木秦野道路）建設に伴い、平成 13 年 7 月～平成 15 年 12 月まで実施され報告書も刊行されています。平成 22 年 7 月から第 2 次調査が開始されました。

第 2 次調査では、近世、中世、奈良・平安時代、縄文時代の遺構が発見されました。中世の地下式坑は、深さ 2m以上の縦坑をローム層まで掘り込み、そこから横穴を掘って地下室が設けられていました。以前の調査では、地下式坑からおよそ 1 万枚の銅銭が出土して話題になりましたが、今回は、青磁の破片や使い込まれた石臼が出土したのみでした。

3号地下式坑（2010 年）

伊勢原市№.71 遺跡　粟窪地区（いせはらしなんばー71 いせき　あわくぼちく）

（所在地）	伊勢原市東富岡地先、粟窪地先	（時代）	近世、中世、奈良・平安時代、古墳時代、縄文時代	（調査期間）	2010 年 10 月～2013 年 2 月

伊勢原市№.71 遺跡（粟窪地区）は伊勢原市東富岡および粟窪に所在し、小田急小田原線伊勢原駅の北方約 2ｋｍ、標高 35～36ｍの台地上に立地します。調査は、中日本高速道路株式会社による新東名高速道路建設事業に伴う事前調査として実施しています。

現在調査を行っているのは、台地北東側の緩斜面で、これまでの調査で古墳時代～近世の遺構や遺物が発見されています。

奈良・平安時代～近世は畑作に関連すると思われる遺構が主体ですが、古墳時代は竪穴住居跡や掘立柱建物跡といった居住に関連する遺構が検出されています。

竪穴住居跡（2011 年）

竪穴住居跡は床面に炉が設けられているタイプ（写真）と壁際にカマドが設けられているタイプが認められました。これらの住居の年代は出土遺物から、炉を持つ住居が古墳時代前期～中期頃、カマドを持つ住居が古墳時代後期頃に位置づけられます。

天神谷戸遺跡（てんじんやといせき）

（所在地）	二宮町二宮	（時代）	近世、中世、奈良・平安時代、古墳時代	（調査期間）	2010 年 1 月～2011 年 3 月

天神谷戸遺跡は中郡二宮町の東南部、大磯丘陵南端部にあり、ＪＲ東海道線二宮駅から北北東へ約 700m に位置します。

調査は国土交通省関東地方整備局の依頼による横浜地方法務局小田原支局庁舎の新設工事に先立つものです。

中世では井戸跡、奈良・平安時代では条里制の影響下にあった可能性がうかがえる溝状遺構、古墳時代では水田状遺構等が発見されました。

今回発見された古墳時代の水田状遺構は、前回発見された 5 世紀末～6 世紀初頭の居住域との位置関係から当時の集落における生産遺構と考えられ、集落の生業が農耕を基盤としている可能性が示唆されました。

水田状遺構（2011 年）
（方形の区画が水田の跡）

公益財団法人かながわ考古学財団では年数回、行事案内メールを送付しています。

行事案内メールをご希望の方は、氏名・メールアドレスを記入の上、行事案内希望と明記したメールを fukyu@kaf.or.jp までお送り下さい。はがきによる案内をご希望の方は往復はがきを野庭出土品整理室宛て送付して下さい。なお、お寄せいただいた個人情報は行事案内以外の目的には使用いたしません。